

キャラクター名
ドルトア・グラヴェン

プレイヤー名

種族	ドワーフ	種族特徴	暗視、剣の加護/炎身		
生まれ	練体師	性別	男	年齢	26
冒険者Lv	9	経歴	命を助けられたことがある		
経験点	770		大切な約束をしている 己に何らかの誓いを立てている		

技	5	能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
		器用度	13	2		20	3
体	9	敏捷度	4	4		13	2
		筋力	7	13		29 + 2	5
心	6	生命力	10	9		28	4
		知力	1	9		16	2
		精神力	18	5		29	4

技能	Lv.	技能	Lv.
ファイター	9	ライダー	8
ソーサラー	1		
コンジャラー	9		
ブリスト/ザイア	5		
レンジャー	9		
エンハンサー	6		

戦闘特技			
タフネス	2122 p		p
治癒適性	2122 p		p
不屈	2123 p		p
ポーションマスター	2123 p		p
挑発攻撃	1B37 p		p
防具習熟A/金属鎧	1B31 p		p
魔力撃	1B39 p		p
防具習熟S/金属鎧	1B32 p		p
全力攻撃	1B36 p		p
			p
			p

言語	会話	読文
交易共通語	○	○
ドワーフ語	○	○
魔法文明語	○	○

練技/呪歌/騎芸/賦術	
ビートルスキン	
キャッツアイ	
アンチボディ	
マッスルベアー	
リカバリー	
ファイアブレス	
遠隔指示	
騎獣強化	
高所攻撃	
チャージ	
人馬一体	
超高所攻撃	
特殊能力解放	
HP強化	

技能	基本 レベル	基本 命中力	基本 回避力	基本追加 ダメージ
ファイター	9	12	11	14
グラップラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

鎧と盾		必要 ランク			
鎧	ミスリルプレート		24	-2	11
盾	タワーシールド		17		2
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					
回避技能					合計値
ファイター					9 17

武器	用法	必要 筋力	命中 修正	命中力	C値	追加 ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
スピア	1H両	15	-1	2d+ 11	10	14	20										
ライロックソード <<魔力撃>>宣言時、魔力+2	1H両	17	2	2d+ 14	10	16	17										
ライロックソード <<魔力撃>>宣言時、魔力+2	2H	17	2	2d+ 14	10	16	27										
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													

制限移動	通常移動	全力移動
3 m	13 m	39 m

回避	防護点
2d+ 9	17

HP
70

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
真語魔法	1	3			
操霊魔法	9	11			
深智魔法	1	11			
神聖魔法	5	7			

魔物知識/弱点	先制力
2d+ 10/×	2d+ 0

生命抵抗	精神抵抗
2d+ 13	2d+ 14

MP
74

装備品	説明
頭 セーフティメット	一度だけダメージクリティカル、運命変転、V毒根撃、防衛ファンブル等を無効
耳 聖印	
顔 赤の眼鏡	破壊で眠りに対する生命・精神抵抗に成功
首 ポーションインジェクター	予めセットすると補助で使える
背中 ウェポンホルダー	武器や盾をひとつ補助動作でこれに着脱できる
右手 筋力の腕輪	
腰 ブラックベルト	
足 跳躍の羽	[飛行] [飛行] [飛翔] [飛翔]も能力が剣の加護/剣の翼で飛行するキャラクターの足袋ダメージ+2
その他不撓のバックル	<ガン>の攻撃を精神抵抗で受けられる、成功で半減[マナ不干渉]でダメージなし

装備品	説明
左手 信念のリング	

その他メモ	自動失敗 チェック
～経歴語り～	チェック
フォストリスの隣、名も無き無法領、そこが僕の出身、故郷じゃな。	□□□□⑤
元々はリフティという領だったのじゃが、幼き頃に蛮族どもがリフティを攻めてきおってな、所謂紛争状態となったのじゃ。	□□□□⑩
僕の両親も勇敢なる戦士として、リフティを守る為、勇ましく戦いに赴いておったが・・・	□□□□⑮
まあ、僕が紛争孤児となっておったのがその後を物語ってしよう。	□□□□⑳
飢えを耐え、孤児同士身を寄せ合い、時には生きるが為に危険に身を投じることもあったのう。	□□□□㉑
そして、そんな生活をしておったら、当然死は目の前にやってこよう・・・その日は警備の薄い食糧庫から帰るときじゃったなあ・・・	□□□□㉒
僕が周囲を注視し、他の者達が食料を集め、持ち帰る、いつも通りなはずだったんじゃが、	□□□□㉓
何を誤ったのか、予定より早く気付かれてしもうてな、拠点を知られぬようにするには僕が残るほかなかったからのう。	□□□□㉔
僕が殿を務め、他の者たちを逃がしたまではよかったんじゃが、この足の遅い身じゃからな、僕はどうしても逃げ切れなかった。	□□□□㉕

